

4. MGPR

◎参加人数 9名

◎活動の趣旨

MGPR では、宮城学院女子大学の魅力を、様々な行事・イベントで学生目線からアピールしていく。

◎発足の経緯

昨年に引き続きの申請であり、オープンキャンパスの構内案内やキャンパスツアーが学生主体で行われることで、訪れた学生が本学の学生の生の声を聞く機会が得られる。また、オープンキャンパスのアンケートでもMGPRによるキャンパスツアーは好評であり、私達メンバーも得られるものが多いため、ぜひ活動を継続したいと考え申請した。

〈構内協力団体〉入試課(担当:小野寺さん)、学生生活担当の皆様、各さなぎプロジェクトの皆様、各自主活動の皆様、学友会の皆様、MG-LAC

◎今年度の活動内容

4月	<ul style="list-style-type: none"> ●新入生歓迎ガイダンスにて、MGLAC 紹介。本学の自主活動の精神の説明。自主活動紹介時の司会進行を務める。 ●MGPR 新規メンバー募集の呼びかけ(チラシの配布を中心に)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●新規メンバーに活動の概要等の説明。キャンパスツアーの研修。 ●フラッグ作成の計画、デザイン立案(入試課担当者との相談)。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●3日(月):KAKEHASHI Project-The Bridge for tomorrow-「JENESYS2.0 および北米地域との青少年交流」(米国)短期招へい事業に参加の米大学生25名来校の際のキャンパス紹介。ボランティアと協力しながら英語でのツアーを行った。 ●22日(土):春のオープンキャンパスでの構内案内、キャンパスツアー(新規メンバー初ツアー)。

7月	<ul style="list-style-type: none"> ●13日(水):サンプラザでのマイナビ主催の大学説明会に参加。ブースにて学生生活等を紹介。 ●27日(土):夏のオープンキャンパスでの構内案内、キャンパスツアー(フラッグ初使用)。各自の連絡手段としてトランシーバーを学生支援グループ学生生活担当より借用。また、キャンパスツアーの周知のためのチラシを配布。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ●他県より「本学と児童教育学科について知りたい」という個人依頼を受け、児童教育学科のボランティアに協力をお願いした。夏休みに高校生とご両親が来校し、MGPRより本学の全体的な説明後、ボランティアに児童教育学科の学科説明と学科の施設案内に協力してもらった。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ●学友会より、宮城大学主催の合同オープンキャンパス「FindingCollege」の企画参加の依頼を受ける。宮城大学の企画担当者とメールでのやり取りを開始。 ●28日(土):秋のオープンキャンパスでの構内案内、キャンパスツアー
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●県内外の高校生の大学訪問にてキャンパスツアーと学生生活紹介。質問回答などを行う。(計4回) ●宮城大学主催の合同オープンキャンパス「FindingCollege」で行う大学紹介のための資料作りを行う。入試課の担当者にも資料の確認をもらい、写真やパンフレット等を用意してもらう。 ●企画内容に「学食紹介」があったため、さなぎプロジェクト「楽食プロジェクト」さんより、写真と情報提供の部分で連携。 ●宮城大学より企画の延期の報告を受ける。最終的に参加大学は宮城大学と宮城学院女子大学、東北学院の3校に留まった。専用のHPが作られ、高校生の参加者を募る。 ●依頼を始めに受けた学友会とのミーティングを行い、学友会の参加メンバーとの顔合わせを行

4. MGPR

	<p>う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開催日 5 日前に、宮城大学での 3 校合同ミーティングが行われる。
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ●開催日 2 日前に企画の中止が告げられる。入試課の担当者と学友会、楽食プロジェクトさんに企画中止の報告をする。合わせて謝罪。 ●「FindingCollege」のために作った資料を冬のオープンキャンパスで発表する企画を立て、資料の手直しを行う。 ●新規メンバーに活動の概要等の説明。キャンパスツアーの研修。
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ●7日(土):冬のオープンキャンパスでの構内案内、キャンパスツアー(新規メンバー初ツアー)。「学生による大学紹介」という企画で、大学紹介の発表を行う。
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ●「早期合格者の集い」のスタッフ依頼を受ける。学生生活担当の担当者、参加団体との顔合わせと打ち合わせ。 ●「さなぎプロジェクト」の報告会。今年度の活動の反省、引き継ぎ準備。
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ●「早期合格者の集い」担当者との打ち合わせとミーティング。学友会、寮委員との写真提供と情報提供、作業連携をする。リハーサルと、会場(小ホール)の飾り付けを行う。学生生活紹介と質問回答の資料を作成。 ●18日:「早期合格者の集い」第3部の司会進行、大学生生活紹介、パネル方式の質問回答を担当。会場の装飾のために作成したものは学友会と共有することで合意。学友会倉庫にて保管(要相談)
〈今後の予定〉	
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ●代表者引き継ぎ。入試課担当者との新年度の活動確認。
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ●4日:入学式にて、保護者対象のオープンキャンパスを行う。

◎今年度の活動を終えて

《オープンキャンパスについて》

春夏秋冬の年 4 回のオープンキャンパスで、大学案内やキャンパスツアーを行いました。キャンパスツアーでは、学食、図書館、礼拝堂など大学生活で主に使用する施設について説明しました。

今年は、ツアーフラッグの作成やビラ配りをし、多くの人にキャンパスツアーをアピールする工夫をしました。キャンパスツアーの経験を積む中で、自分達のコミュニケーション能力の向上につなげることが出来ました。また、冬のオープンキャンパスでは、ツアーとは別に大学紹介の場所を設けて頂き、発表の機会を作っていただいたことで、ツアーとはまた違った交流の機会を作ることが出来ました。

しかし、参加者が本当に知りたかったことが何なのかを意識したツアーができなかったことが反省点としてあげられます。この反省を踏まえ、来年度は参加者が本当に知りたいこと、また、在校生の立場から伝えたいことをきちんと伝えるキャンパスツアーを目指したいです。

《KAKEHASHI Project-The Bridge for tomorrow-「JENESYS2.0 および北米地域との青少年交流」(米国)短期招へい事業について》

最初は言葉の壁もあり、事前に用意した英文を読むのに精一杯でした。しかし、チームで補い合いながら何とかツアーを成功させることができました。

最も大変だったのは、米国人大学生とのコミュニケーションでした。途中噴水で休憩を入れ、皆さんとコミュニケーションをとったことで、その後のキャンパスツアーがフレンドリーなものとなりました。

質問をされても英語で上手く答えることができず、英文学科などの学生ボランティアの方に通訳をしてもらいながらツアーを進めていきました。拙い英語とジェスチャーを皆さん優しく聞き取ってくれ、また、皆さんも私たちに出来るだけ分かりやすい簡単な英語で話してくれまし

4. MGPR

た。英語だけでなく、身振り手振りなどをフルに使ってコミュニケーションをとり、ツアー終了時に拍手をもらった際には大きな達成感がありました。

《マイナビ主催のオープンキャンパス》

昨年に引き続き、マイナビ主催の大学説明会に参加させていただきました。私達が任されたところは、高校生が大学生に気軽に質問できるような、大学生による相談コーナーでした。

必ず聞かれるのは女子校とキリスト教についてでした。やはり今まで関わったことがないということで不安な面があるようだったので、私たちの体験を具体的に話すことで少しでも安心してもらえたのではないかと考えています。また、個人個人での対応でしたので、一人に時間をかけながら詳しく説明することができました。高校生は、大人には聴けないけど、大学生の人になら質問できるというものが多いようで、積極的に質問してくれたのが印象的でした。

私達自身も、高校生はどのようなことが不安なのか、大学に対するどのようなことをききたいのか等を知ることができました。

これを参考に宮城学院女子大学のオープンキャンパスへ繋げることができました。この説明会が行われたのは、夏のオープンキャンパスの前であったため、説明会に来てくれた高校生が、オープンキャンパスで私達に声をかけてくれたことが印象に残っています。

《高校生の大学見学(計4回)》

普段のキャンパスツアーと違い、高校生を大勢引き連れての大学見学でした。ツアーの短い時間の中で、緊張している高校生とできるだけ距離を縮められるように努力しました。大人数ということで移動にも時間がかかり、数人としかコミュニケーションがとれず、また通常授業も行っているので十分に回ることが出来なかったのが心残りです。高校生がどんなことを聞きたいのか考えながら、またコミュニケーションをする中で汲み取りながら、それ

をツアーに反映させることの重要性を改めて考えさせられました。

《「FindingCollege」について》

宮城大学主催で運営されたこの企画は、高校生の様々な負担を少なくするために宮城県内の大学を一か所に集め、その大学の学生による大学紹介を行うことで高校生がより主体的な大学選びができる機会を作ることが目標でした。しかし、高校生が集まらずこの企画は中止となっていました。

参加者を集めるということ、また新しい企画を一から作る難しさを学びました。しかし同時に、一つの企画のために多くの団体に協力をお願いすることで、連携体制の下地を作ることが出来ました。

《「早期合格者の集い」について》

私達MGPRは、全体交流会の開催に携わりました。学友会さんと寮員さんのご協力もあり、大学生活を様々な視点から紹介することができました。なかでも質問回答では、学科・学年の枠を越えたアドバイスもあり、高校生の不安を和らげる一助になるとともに、これから始まる大学生活への意欲を湧かせるものになったと思います。

また個別相談もあり、高校生に寄り添う形の会ができました。やり甲斐を感じる活動で、とても良い経験となりました。

この企画は今年初めての企画ということで、何が求められているのか、高校生に何を伝えたら良いのか、模索しながらの活動になりました。学友会と寮委員、学生生活担当の方との連携はこれまでの活動ではなかったものであり、とても新鮮な気持ちで一緒に活動させていただきました。

当日の第3部の司会進行、会場の飾りつけや2種類の資料作成等、時間が少ない中でもMGPRメンバーと他団体さんに協力していただきながら準備を進めていきました。

自分達がこれまで培ってきたコミュニケーション力、プ

4. MGPR

プレゼンテーション力を発揮する機会ではありましたが、それに加えて今回は一つの企画をこれまで接したことのない団体さんと作り上げることも重要でした。「どのようにしたら高校生に楽しんでもらえるか」「高校生の不安を解消するにはどんな進行をしたらよいか」、多くの団体さんと考え、連携し、第3部を作り上げていくことが大きな課題でした。パネル方式の質問回答では各団体さんに会話風に質問に答えてもらい、司会進行係が会話をまとめる形でした。各々が各々の団体の説明をしつつ、自分達の経験や思いを語れるように進行していく難しさを感じました。リハーサル時の先生方の助言も活かし、参加している高校生が4月から通う大学について少しでも不安を解消できるように進めていくよう努めました。

この企画を通し、他団体さんとの連携、また一つの企画を運営する力、そのために必要な技術を学ぶことが出来ました。

◎今年度の活動のまとめ

今年度はこれまでの2年間の活動を踏まえ、新しいことを多く取り入れ、また挑戦した活動でした。

このような機会を与えられたことに感謝しつつ、また挑戦ゆえの難しさもありました。入試課の担当の方には、活動場所の提供やパンフレット、写真の提供などをいただき、また私たちの至らない部分をフォローしてくださるなど、多くの迷惑をかけてしまったにもかかわらずたくさん協力して頂いた1年でした。

自分達のコミュニケーション力不足やプレゼンテーション力不足を感じるメンバー、様々な角度から宮城学院を自分の言葉で紹介することで自分が通っている大学への誇りや愛着が増したメンバー。今年度の活動を通し、多くを経験し多くを学ぶことが出来ました。

反省としては、他大学のオープンキャンパスを見学する機会を持てなかったこと、また学年によって技術の差が出てしまい、またそれをフォローするような研修の機会が持てなかったことが挙げられます。オープンキャンパスでのキャンパスツアーでは、「ツアーガイドを行った際、

参加者を意識しない一方的な説明が多かったこと」「ツアーガイドのマニュアルに囚われてしまったこと」等が挙げられました。

これらの反省を改善し、さらに充実した活動を目指していきたいと考えています。1年間、ありがとうございました。



4. MGPR



4. MGPR

